

講演者プロフィール

井関 龍太 (日本学術振興会特別研究員 (PD)・京都大学)

《略歴》

2005年、筑波大学大学院心理学研究科博士課程修了。現在、理研BSI-トヨタ連携センター研究員。

《専門分野》

文や文章の理解に関わる認知心理学的、言語心理学的研究。

《主な論文・著書など》

井関龍太 (2006) . 照応処理における活性化ユニットの検討－反復照応詞と代名詞の機能的差異－ 認知科学, 13 (3) , 316-333.

井関龍太・川崎恵里子 (2006) . 物語文と説明文の状況モデルはどのように異なるか－5つの状況の次元に基づく比較－ 教育心理学研究, 54 (4) , 464-475.

井関龍太 (2012) . 複数の文の情報を統合する－照応と橋渡し推論－ 川崎恵里子 (編) 認知心理学の新展開－言語と記憶－ ナカニシヤ出版, pp. 115-135.

山形 伸二 (独立行政法人 大学入試センター特任助教)

《略歴》

1979年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。日本学術振興会特別研究員(SPD), 慶應義塾大学先端研究センター研究員を経て、現在、独立行政法人大学入試センター特任助教。

《専門分野》

行動遺伝学, 発達心理学, パーソナリティ心理学

《主な論文・著書など》

Yamagata, S. et al. (2006). Is the genetic structure of human personality universal? A cross-cultural twin study from North America, Europe, and Asia. *Journal of Personality and Social Psychology*, 90, 987-998.

McCrae, R. R., Yamagata, S. et al. (2008). Substance and artifact in the higher-order factors of the Big Five. *Journal of Personality and Social Psychology*, 95, 442-455.

山形伸二ら (2011) Grayの行動抑制系と不安・抑うつ：双生児法による4つの因果モデルの検討 パーソナリティ研究, 20, 110-117.

奥村 泰之 (独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター外来研究員)

《略歴》

2003年 早稲田大学 第二文学部 社会人間系専修 卒業後、国立保健医療科学院、日本医科大学、国立精神・神経医療研究センターなど主に医学領域で研究に従事

2009年 日本大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士(心理学) 取得

2011年 公益社団法人日本心理学会「心理・医学系研究者のためのデータ解析環境Rによる統計学の研究会」を主催

《専門分野》

医療経済学と疫学・生物統計学を基礎とした、成人の精神疾患（主に、うつ病、急性医薬品中毒、統合失調症）の研究

《主な論文・著書など》

“Statistical power and effect sizes of depression research in Japan (Psychiatry and Clinical Neurosciences 65 (4): 356-364, 2011)”

“Cost of depression among adults in Japan (Primary Care Companion for CNS Disorders 13 (3): e1-e9, 2011”, など。